

## 6 研究協議の主な内容

## (1) グループ協議の内容

【討議の柱1 知識を相互に関連付けてより深い理解に向かうことができていたか】

- ・目的意識をもって知識を増やすことで、深い理解につながっていた。
- ・情報収集の段階で、ほかのグループが調べている内容にも触れていたことから、本時の交流を通してより児童の知識が深まっていた。
- ・まとめ方は文章表記にこだわらなくてもよいのではないか。
- ・知識を相互に関連付けているのかどうかをどのように見取っていくべきなのか。

【討議の柱2 単元デザインは、児童の「主体的・対話的で深い学びの実現」に結び付いていたか】

- ・実際に兵村記念館を見学したことが深い学びにつながっていた。
- ・劇化したことにより、先人の苦労や努力に注目させることができた。
- ・単元デザインの工夫により、学級全体で屯田兵のことについて抵抗感なく対話できていた。
- ・自分の問いを広げ、学級全体で屯田兵の工夫や努力について調べたり劇化したりすることが深い学びにつながっていた。

## (2) 指導主事の助言

〈旭川市教育委員会 教育指導課 主査 近田 博信〉

- 社会科の学習においては、学習問題の解決がゴールであるということを教師と児童が共有し、「自分の興味があること以外も調べる」、「各自が調べたことを共有する」という意識をもたせることが重要である。調べ学習を始める前に、共通して調べることを学級全体で確認することも有効である。
- 児童に、学習問題は学級全体で解決するものであるという意識をもたせることが重要である。話合いの必然性が生まれるなどの効果もある。
- 「自分でまとめを書くことができる児童が少ない」という児童の実態から、板書を手掛かりにすることなどの手立てが有効であった。

## ① 「課題設定、見通し」について

- ・社会科においては、問題解決的な学習の充実が重要である。特に、社会的事象との出会いが大切であり、児童が「面白そう」「追究してみたい」と思うなど、追究意欲を醸成することが必要である。解決する際には、他者と協働的に追究すること、追究結果を振り返ることも重要である。
- ・「屯田兵はどのように旭川を開拓したのだろうか」は、社会的な見方・考え方を働かせることができる学習問題であった。
- ・課題が見方・考え方を働かせるものになっているか、単元の導入の段階で児童生徒の追究意欲を高めることができているかについて検討することが重要である。

## ② 「自己決定、自己選択」について

- ・本実践では、調べる内容を児童が決定し、学習を進めていた。
- ・児童が、調べ方や進め方を決定する場合、教科の特質に応じて、内容やまとまりを意識した授業づくりを行うとともに、指導と評価の一体化を意識し、適切な学習環境を設定するなど、教師が様々な点に留意しながら指導する必要がある。

## ③ 「単元レベルでの振り返り」について

- ・本授業では、視点を明確にして内容面と方法面から振り返り、必要に応じて他者参照することができていた。
- ・資質能力を身に付けた児童の姿を具体的にイメージし、児童がどのような振り返りを記述することが

望ましいかを想定しておくことが大切である。

〈上川教育局 教育支援課 義務教育指導班 指導主事 川邊 宏司〉

① 「発問」について

- ・「屯田兵は旭川にとってどのような存在と言えるでしょうか」といった、屯田兵の努力や苦勞が、旭川の発展や人々の生活の向上につながったことに気付かせるための発問などの工夫が見られるなど、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的な考察が行われており、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせながら学習を進められるように意図されていた。
- ・授業においては、教師が各教科の見方・考え方を理解するとともに、児童が見方・考え方を働かせ、より質の高い深い学びにつなげていくことが重要である。

② 「必要感のある学び合い」について

- ・学び合い、対話の先には単元で育成を目指す資質・能力があり、対話に先立ち、自分なりの考えを児童がもつことができるよう展開を工夫することが大切である。
- ・本時では、学習問題を振り返って結論をまとめることができるよう、発表を見たあと「どの発表にも共通することがあるか」という比較・分類・総合するための働き掛けが見られた。
- ・児童生徒が多様な他者と協働し、納得解を生み出すことができるよう、分析した情報をクラウドで共有するなど、ICTを効果的に活用し、多様な他者との関わりながら学びを深めていくことが大切である。

③ 「本時レベルでの振り返り」について

- ・児童が「今日の学び」、「学び方」の視点で振り返りを記述していた。振り返りにおいては、児童が次の学びにつながる振り返りとなるよう、工夫することが大切である。
- ・例えば、本時レベルの振り返りを行う際、児童が学習内容や自己の学び方について振り返ることができるよう、児童が何を振り返るかを、今日の授業のように分かりやすい言葉で示すなどの工夫が考えられる。
- ・また、前提として、学習を進める中で、自由に課題を変更したり、内容を修正したりすることができるなど、児童が試行錯誤したり、自己調整を働かせたりすることができる単元計画が、学びを一層充実させることにつながると考えられる。